

クロスミントンの普及、発展に向けて

2023年10月19日

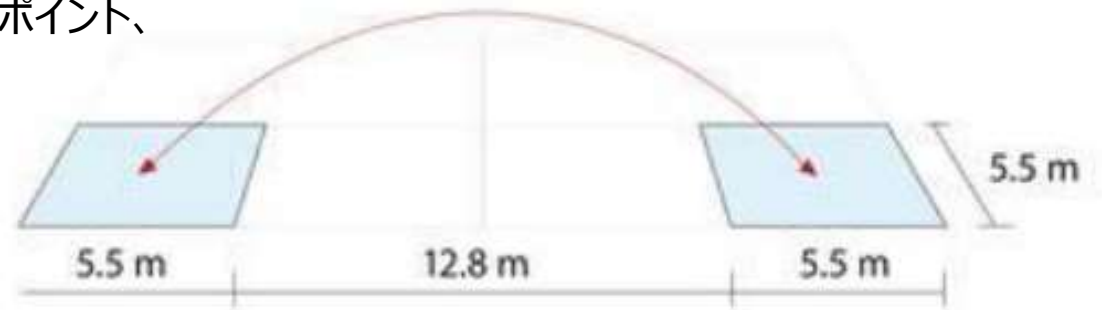
一般社団法人日本クロスミントン協会

クロスミントンとは？

クロスミントンはテニスより細く軽いラケットで、スピーダーというプラスチック製の羽根を打ち合うスポーツです。バドミントンとテニスの中間のスポーツのイメージですが、最大の特徴はネットがありません。



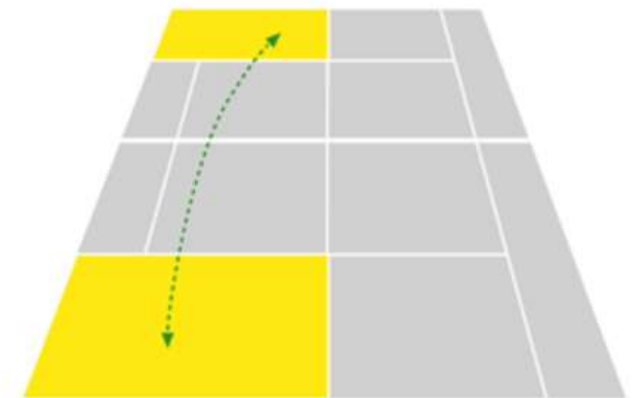
12.8m離れた5.5m四方の自陣と相手陣に分かれ、ラリーを行います。相手陣にスピーダーを落とせば得1ポイント、相手陣以外に落ちれば失1ポイントです。通常1セット16点先取で、3セットマッチで行います。



スピーダーはプラスチック製の為、初速から手元に来るまで、それほどスピードが落ちません。従って、低い軌道で直線的に打ち合ったり、高い軌道で相手陣後方を狙ったり、3次元的な攻め方が展開されます。またスピーダーの中心には穴が開いていて、飛ぶときに『ピューン』という爽快感がします。またバドミントンより風の影響を受けにくいので、公園やビーチなどの野外でも楽しめます。

試合は、1対1で対戦するシングルスと、同じコートサイズで2対2で対戦するダブルスがあります。

日本では屋内であるイメージが多いですが、海外では屋外でも試合を行ったりします。テニスコートでちょうど2面が取れるサイズになっています。



地域スポーツクラブからメジャー競技へ

クロスミントンはドイツで生まれて、2004年に日本に入ってきた。東京都大田区の総合型地域スポーツクラブのピボットフットが初めて教室として導入して、地道に普及活動を続けた。

大田区からのリーディングを進め、ピボットフットで蒲田高校での授業を継続的に取組み。体験会も積極的に開催。その結果、現在、全国各地に40個のクラブチームがある。

2008年「日本スピードミントン協会」を設立し、2019年海外選手へのビザ発給など更なる飛躍の為に、一般社団法人化した。

ジュニアへの普及と地域への根ざす為に、全国の地域スポーツクラブやスポーツ推進委員への紹介を強化。2019年全国スポーツクラブ会議にてブースを設置して紹介。

国内大会、国際大会を日本で開催し、海外選手にも来日してもらい、日本選手も海外の試合に参加し、金メダルを取るまで成長。大森スポーツセンターでの初めての国際大会では外国選手と地域、ボランティア、商店との交流がはかられた。

大学クラブの活性化の為に、2019年に学生連盟を発足。

ゆくゆくは、日本各地にクロスミントンのクラブや協会を。

そしてオリンピックの種目に。

クロスミントンの今まで

2023年日本で初のアジア選手権を開催

2021年3月感染症対策をして大会実施再開。

2020年日本で初のアジア選手権を開催計画も

2019年大学中心の学生連盟発足。 コロナで中止。

2019年協会を一般社団法人化する。

2019年首都圏以外の豊田市でジャパンオープン開催。

2018年日本のクラブ数が20を超える。

2018年ICOのボードメンバーになる。※ICO:世界クロスミントン機構

2016年『スピードバドミントン』から『クロスミントン』へ名称変更。

2015年～日本で初のジャパンオープン(国際大会)を開催。

以降は毎年、2回国際大会、2回国内大会開催)開催地は主に大田区。または埼玉県大宮・浦和。

2019年 地域総合スポーツクラブ(豊田市)共催の国際大会も実施

2014年日本で初のジャパンオープン(国内大会)を開催。

2008年『日本スピードミントン協会』設立。

2008年～2014年 日本スピードミントン交流大会実施(6回)

2007年～2021年、都立蒲田高校の体験授業で1年生対象に取り入れて。以降14年間継続。

2004年日本に入る。2005年 ピボットフットで教室を開始。

2001年スピードミントンの競技がドイツで生まれる。

全国に広がるクロスミントクラブ

2023年10月時点、全国に45クラブ

